

香港区議会 親中派一色へ

民主派候補ゼロ 推薦条件が壁

香港の地方議会に当たる区議会の選挙が10日に投票される。4年前の選挙では民主派が80%超を得票して圧勝したが、中国共産党が統制を強め、政府に忠誠を誓う「愛國者」しか立候補できない制度に変更された。これにより、地域に根差した区議も親中派一色になることが確実な情勢だ。

「市民の声を政府に届けられるパイプ役になりたかった」が、立候補に必要な条件を満たせなかつた。民主党の元区議、伍凱欣さん(40)は取材に対し、無念さを感じました。

今回の区議選は、政府が候補者の選定に関わるよう、7月に制度が改変されから初の選挙になる。前回までの制度は、大半を一人1票の直接選挙で争い、香港で最も民意が反映されやすい選挙だった。こ

投票開票ようき

香港の区議選を控えた8日、地下鉄の中環(セントラル)駅では投票呼びかけの政府広告が流されている=石田耕一郎撮影

候補期限までに、誰からも返事はなかつた。民主党からは他に5人が立候補を模索したが、みな推薦を得られず、断念した。こう。伍さんは「立候補は基本的な権利のはずだ。条件を設けるのは間違つて立候補を模索したが、みないる」と語る。

区議は文化活動や保健などの住民サービスを担う一方、コロナ対策などの要望を聞いて議論し、政府に進言する役割を担つてきた。

2019年の大規模な反政府デモのさなかにあつた前回選挙では、民主派が385議席を得て圧勝した。しかし、香港政府は21年に資格を剥奪できるように議員を失職に追い込んだ。民主党の朱子洛さん(32)はそれでも忠誠を誓う宣誓をして区議を続け、今回の再選を目指したが、委員の推薦を得られなかつた。民主党の地区委員の任期は1年。政府による再選をを目指したところ、自身の選挙区の委員約130人の名前と住所が記されたリストを受け取つ

任を望む場合、民主派候補を推薦すれば不利になる。

委員の問題でなく制度の問題だ」と語った。

民主派を自認する無党派の現職、黃丹晴さんは立候補を諦めた。任期の4年間、住民サービスに務めたほとんどは親中派だ。もう二度と区議にはなれないだろうが、困った人を助ける仕事は続けていきたい」と、政府トップの行政長官らを選ぶ選挙委員(定数1500)の99・9%、立法会議員(定数90)も89人が親中派となつている。

政府は地下鉄駅で繰り返し宣伝映像を流すなど、市民に投票を呼びかけている。だが、市民は選挙を冷めた目で見る。民主派を支持する70代の男性はすでに棄権を決めている。

「親中派の候補なんて誰

も知らない。ごまかしの選挙には加担したくない」

(香港)=石田耕一郎